



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

95.6.23 No. 4211

貨物格差弾劾!

開始されたJR

体制の再編攻撃

格差回答弾劾!

JR貨物当局は、夏季手当交渉をめぐって、またも、JR総連・貨物労としめし合わせた「二・四五カ月」という格差超低額回答を行った。断じて許せない。われわれは、度重なる格差への怒りをバネに、JR貨物をめぐる新たな攻撃と真正面から対決する構えを早急につくりあげなければならぬ。

JR体制の再編攻撃が始まった

JR貨物は、国鉄分割・民営化の矛盾が最も集中するがゆえに、JR体制の反動的再編攻撃の最大の焦点となっている。今年に入って、運輸省や経団連等から、物流―鉄道貨物輸送に関する抜本的な見直しの提言や発言が相次いでいる。経団連は、「公的財源の十分な確保による新たな貨物鉄道基盤の整備」を打ちだし、運輸省は、JR全体の経営のあり方の再検討に着手した。これらの動向は、「十年目」に向けて、

場合によっては、経営形態の再変更も含む分割・民営化体制の再編攻撃が具体的に動き出したことを意味するものである。

「フレイト二二」合理化を許すな

このような状況のなかで、「中長期経営計画」―「フレイト二二」と称する大合理化攻撃が、いよいよ具体化されようとしている。京葉地区について言えば、JR貨物当局は、現行、総武線中心の鉄道貨物輸送を京葉線中心に転換するという基本的な考え方に基いて具体的な動きは始めている。具体的な提案は未だなされていないが、検討されている内容は、京葉線ルートへの転換に伴って、新小岩機関区は、蘇我に移転し、貨車検修は京葉臨海鉄道へ業務委託し、千葉貨物ターミナル駅も廃止するというものであり、われわれにとつて、極めて重大な攻撃となることは明らかだ。

解決不能の矛盾

しかし、このような大合理化によつて、分割・民営化の結果、鉄道貨物輸送が抱えることになった矛盾・問題点は、何ひとつ解決されるわけではない。むしろわれわれは、「フレイト二二」

を起爆点として、より抜本的な再編の動きが始まると見なければならぬ。現在われわれに問われていることは、このような動向総体と対決し、職場を守り、労働条件を守りぬく闘いの構えをつくりあげるといふことだ。「フレイト二二」攻撃粉碎、「JR体制」の反動的再編攻撃を阻止しよう!

勝浦運転区 廃止阻止へ 市民の署名 1万人!



市議会での決議演しに、一部市議会議員宅をコンコンと訪ね回る状況のなかで、勝浦市議会は、六月二〇日、請願を否決した。断じて許すことはできない。勝浦市議会は、圧倒的な市民の声をふみにじったのだ。

しかし、すでに一人に達した署名こそ市民の声だ。請願は否決できても、この声を潰すことなど絶対できない。市内は、市の反動議員とJR当局に対する怒りで満ちている。署名運動を一層強化しよう。勝浦運転区廃止攻撃を粉碎しよう!

勝浦市民の「運転区存続署名」は、ついに一人に達した。実に、市の全人口の四割、有権者数の過半数を超える署名数だ。こんな署名運動は、未だかつてなかったことだ。連日のように市内を駆けめぐっている署名運動によつて、市内は、どこへ行っても、JRの横暴に対する怒りと署名運動のこともちきりになっている状況だ。全市民の署名獲得をめざし、さらに取り組みを強化しよう。

JR当局とJR総連は、この署名運動演しに躍起となっている。千葉支社当局とJR総連が、菓子折りをもって、